



第 百 八 号

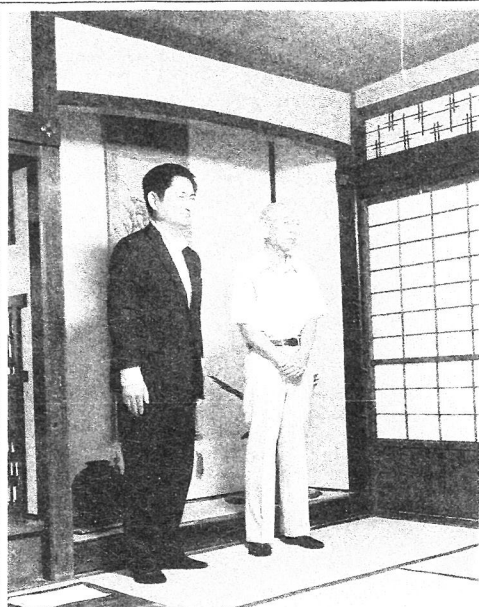
柳井市白壁の町並みを
守る会
事務局(武居弘和)
TEL 090-7139-7319

国森家住宅に係る

感謝状贈呈式開催

柳井市白壁の町並みを守る会

皿田 治



贈呈式での国森氏と井原市長

去る九月二十六日国指定重要文化財国森家住宅において井原健太郎柳井市長より所有者である国森重彦氏に対して感謝状の贈呈式が開催された。国森家は永年の間一般公開されて来たがコロナ禍の発生以来公開が停止され今日に至っていた。この度柳井市に寄贈され令和八年十月三日より年末まで特別公開され

ることが決まった。開館するのは火曜日、土日祝日の十時から十六時三〇分、入場料は無料とのことである。来年一月からは一般公開の予定。

そもそも柳井市白壁の町並みを守る会は国森家住宅が昭和四十九年に国の重要文化財に指定されたことに端を発する。これを機会に昭和五十四年に当会が発足し市県国による調査・協議の末、昭和五十九年に柳井市の古市・金屋地区が国の重要伝統的建造物群保存地区に全国で二十番目に選定された。その後当地区は町並み整備と補助金による個別の家の修理・修景が進められ街灯を一新、電線の地中化、石畳による街路の舗装が行われ今日に至っている。

国森家は当会の発足以来、常に活動の中心拠点としてあり続けて来た。伝統文化・伝統行事としておひな様巡り、七夕まつり、八朔の船流し、中秋の名月の観月祭の主要舞台としての役割を果たして来た。永年会の事務局長を務められて来た国森重彦氏のバイタリティーにはとても余人をもって代えがたいものがあつた。後任として事務局を任された私などとてもではないが足元にも及ばない。例

えば町並みかわら版の編集長としての手腕。なにしろ柳井高校の新聞部の元部長としての経歴。四季を通じての適格な話題作り、厳格な原稿の語数制限、原稿締切日・発行日の厳守など。

さすが血は争えないものとの度実感。国森家は伊予の河野水軍から派生した家系なのだ。伊予国(現愛媛県)風早郡の河野城に本拠を置く強力な地侍集団をご先祖様に持つお方だったのです。なるほどと思わせる場面をご紹介しておこう。事務局長を引かれたある日のこと。かわら版の印刷が終了して守る会の会員数名に配達を担当わけ。国森さん担当の会員が数日放置。いつまで経ってもかわら版が届かない元付。かわら版置き場の一つ町並み資料館へ突如現れ「発行日は厳守せよ。今後許さん!」と云ったとか云わなかったとか。恐る恐る二部差し上げて事なきを得ましたと報告を得たのであります。

国森さんの本名はこの旧字。国の伝統的保存地区の記載には旧字が認められないとのことなので国森家となっていますが誤植ではありません。

Brand New Day

令和の北前船、第二章へ

柳井市白壁の町並みを守る会会長

木阪 泰之

八月十三日に開催された「第三十五回柳井金魚ちようちん祭り」。今年は弘前ねぶたと金魚ちようちんねぶたの競演が実現し、過去最高となる12万人の皆様にお越しいただきました。柳井駅前から白壁の町並み一帯が、これほどの熱気と笑顔に包まれた一日は、私たちにとっても忘れられない光景となりました。



振り返れば、交流の始まりは二〇一九年二月、柳井市白壁の町並みを守る会設立40周年記念事業、今井二三夫さんをお迎えしての講演会でした。あれから7年。小さなご縁を一つひとつつないできた先に、今回の合同運行があります。開催に向けてご尽力いただいた弘前、柳井双方の関係者、そして支えてくださった皆様には、もう感謝しかありません。本当にありがとうございます。

私が特に忘れられないシーンは、祭りの終盤です。弘前ねぶたが駅前からサンビームやないへ帰還しようとしたその時、小雨が降り始めました。「よくここまで持つてくれた。あともう少し、耐えてくれ」と心の中で願ったことを覚えています。しかし今思えば、雨に濡れた石畳にねぶたや金魚ちようちんの灯りが映る光景もまた、この日の記憶をより鮮やかなものにしてくれました。そしてもう一つ、心に残った言葉があります。先頭を任された地元的女子高校生が祭りを終え、「柳井の時代が来た。こんなにたくさんの方に楽しんでいただけて、すごくうれしい」と興奮気味に話してくれました。次の世代から自然に出てきたその言葉が、何よりうれしかった。

このような大きな催しを頻繁に行うことは容易ではありません。だからこそ、これからも両団体、両市が無理をせず、それぞれに出来ることをコツコツと続け、ご縁をつないでいく。その積み重ねこそが大切なのだと思います。

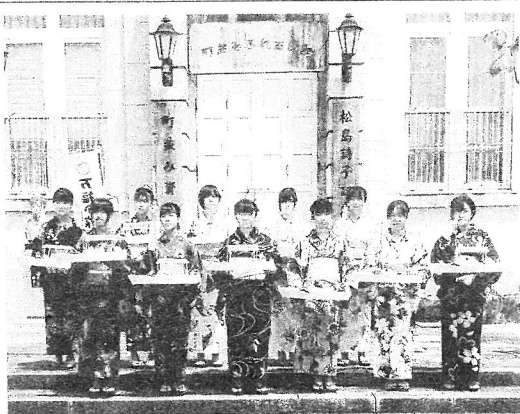
令和の北前船は、まだ出航したばかり。

Brand New Day——続きは、第二章へ。

和の情緒あふれる 第二十六回八朔の船流し

柳井中学校地域コーディネーター

松田 和子



令和八年八月十七日(月)
柳井市の伝統行事「八朔の船流し」が行われ、柳井中学校の女子十一名が浴衣姿で参加させていただいた。

「八朔の船流し」は、旧暦八月朔日に長さ約四十五センチの手製の屋形船(頼母船)に、

和紙で作ったひな人形をのせて川に流し、五穀豊穡を祈念する行事で、大正時代まで行われていたものを平成十二年に復活させたものの。今回で二十六回目を迎える。今年は、酷暑の中で実施された。

髪を結い上げ、華やかな浴衣に身を包み、頼母船を手にした十一人の柳井中女生徒たちが、金魚ちょうちん舞う白壁の町並みをしなやかに歩く姿、そして、船を柳井川に流す姿は、風情がありとても美しい。

その美しい浴衣姿は、毎年ボランティアで生徒の着付けをしてくださる着付け教室の河高先生とお弟子さんや中学校の先生方や保護者の方々のご尽力の賜物である。特に、今年は、着付け場所を「やないろ」さん二階の部屋を提供していただいたおかげで、快適な環



頼母船に祈りを込めて流す生徒たち

境で準備をする
ことができた。
また、着付け後
に、河高先生か
ら着物を着た際
の所作やマナー
をご指導いただ
いた。

ちよつとした
立ち方や座り
方、歩き方の違
いでこんなにも
印象が美しく変

わるのかと驚き感動を覚えた。生徒たちにとつても今後に生きる貴重な体験となつたはずである。この和の情緒あふれる伝統行事が、今後も柳井市の伝統として根付き、末永く続いてほしい。また、地域内外の人々や外国の方たちにも楽しんでいただけたらと思う。

第二回 白壁の町並み清掃 蜘蛛の巣払い大作戦

白壁の町並みを守る会

中重 亜紀子

昨年、初めて行つた「白壁の町並み清掃蜘蛛の巣払い」は好評いただき、今年も八月三日に決行しました。昨年は中学生五名で始動したこの企画、今年はなんと十七名の学生ボランティアさんが参加してくれました。嬉しい悲鳴で、本番一週間前に九名の生徒さんと竹を六本、追加伐採して本番に臨みました。竹先にモップを装着し、二人組で七、八mの竹を操作して蜘蛛の巣を払います。高いところはトラックの荷台に乗つて清掃しました。竹の重さや慣れない作業に四苦八苦していた生徒さん達も、やっていくうちに段々と慣れてきたようでした。それぞれ二人組でアイデアを出し合い、試行錯誤する姿はさすが中学生！思い通りに竹先を動かして蜘蛛の巣を払

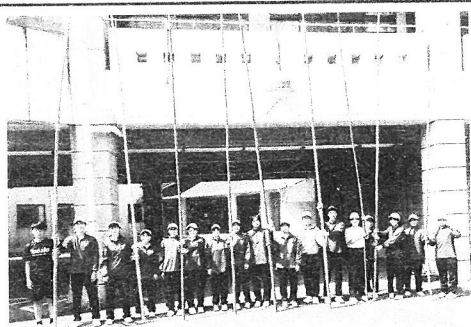
えるたびに、「やったあ！」と嬉しい声がある。ちちらこちちから聞こえてきました。

たぐさんの生徒さんが一斉に白壁の町屋に向かつてゐる姿は、とても清々しく圧巻でした。

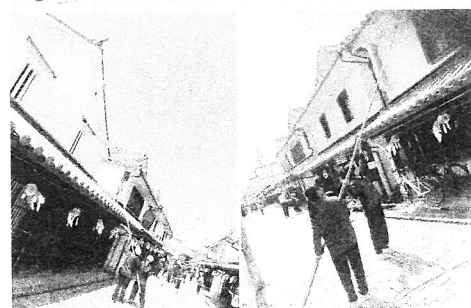
猛暑の中、汗だくで最後まで頑張ってくれたおかげで白壁がとてもきれいになりました。参加の生徒さん感想、「暑かったけど白壁がみるみるきれいになっていくので達成感がありました」

今後も金魚ちょうちん祭り前の白壁清掃に取り組みたいと思った次第です。

生徒さんに飲み物を差し入れてくださつた辻邸、レニーテイルの河村さま、また今回の清掃にご理解とご協力をいただいた皆さま、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。



今回参加の中学生有志17名



白壁の町並みを蜘蛛の巣
払いをする生徒たち

柳井の地図絵図

岸田稔明

第五十一回 一万分一柳井町都市計画図

(昭和二十七年調査) その六 (柳井市蔵)

第四十六回から、柳井市都市計画課に保存されている「柳井町都市計画図」を取り上げているが、今回は宮本塩浜に焦点を当てる。

この地図の宮本塩浜の部分、現在の柳井総合卸センターのある所に、「競車場」と記載がある。「柳井オートレース場」のことである。

宮本塩浜は江戸後期の天保十(一八三九)年に完成し、明治三十三(一九〇〇)年まで塩田であったが、風浪による堤防の被害により廃止となり、一時養魚場として利用されていた。昭和に入り、西側は柳井化学工業株式会社の敷地となった。

昭和二十二(一九四七)年、小月(現下関市)



の競馬場が占領軍に接収されたことや、競馬法の改正により、山口県内二か所に競馬場が開設されることになった。一か所は

宇部に、もう一か所は下関を相手に誘致競争をした結果、柳井に決定した。そこで、宮本塩浜の養魚場跡地、農地を整地し、翌昭和二十三(一九四八)年に走路延長千メートル、幅員十八メートルの競馬場を完成させた。

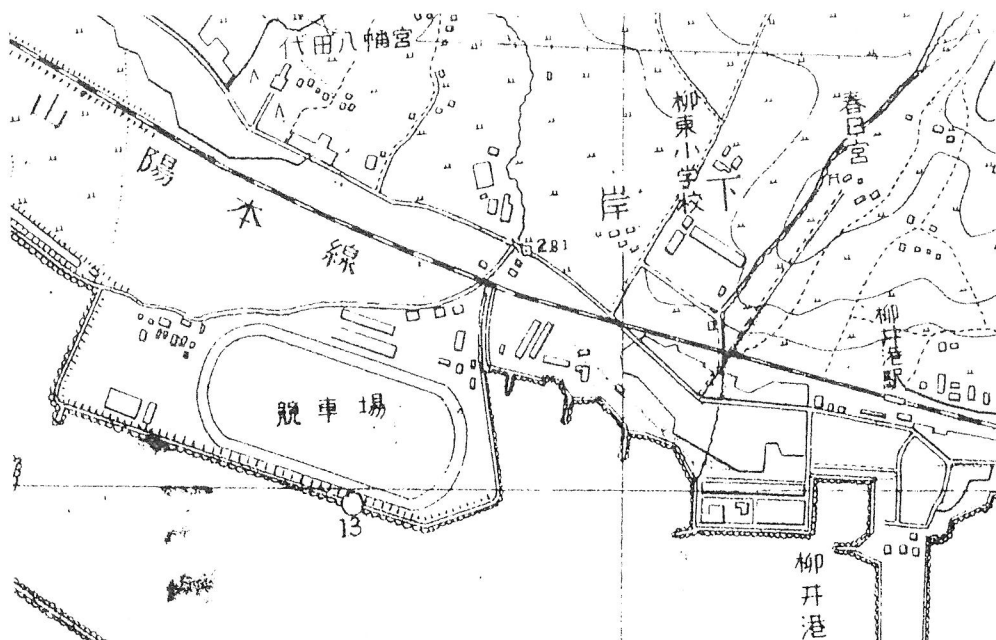
春競馬は同年四月二十五日の天神祭にあわせて開催する予定としていたが、県知事から中止を命ぜられ、昭和二十四(一九四九)年七月の県議会において、占領軍の接収が解除された小月への競馬場の移転が発表された。署名運動や町民大会で移転反対を訴えたが、結局同年九月に廃止された。理由として、新競馬場法では、戦災都市の利益のために競馬場の運営を総理大臣が認可することを規定しており、山口県においては宇部、下関、徳山、岩国に限り運営ができることとされたことや、競馬場として整地した土地が農地だったことを起因とする問題もあったという。

昭和二十五(一九五〇)年、廃止された柳井競馬場の跡地に競輪場を誘致する運動も展開されたが、功を奏しなかった。昭和二十六(一九五一年)年に、競馬場の走路や施設を流用して柳井オートレース場が開設され、同年十一月には県営第一回オートレースが六日間開催された。

しかし、売り上げは伸びず、台風による災害もあり、一旦復旧したもの、昭和三十二(一九五七)年に休止となった。昭和四十(一九六五)年、柳井から埴生(旧山陽町、現山陽小野田市)へ移転したという形を取り、山陽オートレース場が開設された。



柳井オートレース場
(柳井市蔵)



【柳井市都市計画図(昭和二十七年調査、柳井市蔵)】

商都柳井の歴史世二

松島 幸夫

引き札4

しらかべ学遊館に展示してある「引き札」を紹介しています。1回目は回船業者を、2回目は呉服店を、3回目は醸造業者を、今回の4回目は種々の商品を扱う店を紹介します。

①沖堀國七店

「山にサ」の印が店の紋で、柳井津本町に店を構えています。「諸品廉価販売」と表示していますから、種々の品を取り揃えて、廉価で販売をしていました。「相変わらずお引き立てを乞う」と記し、客との人間関係を大切にしながら商いを続ける姿勢を示しています。初日を受けながら鶴が飛ぶ図柄を描いており、お正月のおめでたい雰囲気を感じていただきます。



②長岡嘉兵衛店

糺屋の屋号を掲げ、田布施に店を構えて、卸問屋を営んでいました。国産の菅笠、編み笠、笠緒などを商っていました。店の主人は相撲が大好きだったのでしょうか、相撲の絵柄を並べています。あるいは相撲は日本の国技ですから、国産品を扱うイメージづくりに役立つと判断したのでしょうか。軍配を持つ行司を恵比寿様にして、お得意様も我が店舗も繁盛したいと願っています。

③平井商店

「角に平」の印が店の紋で、柳井津町内に店を構えていました。陶器の卸問屋です。図柄には伊勢の二見ヶ浦を描き、海に向こうには富士山が見え、初日が昇りつつあって、鶴が舞い飛ぶ、正月らしいおめでたい風景です。

④綿貫房吉店(梅田支店)

「丸にわ」の印が店の紋で、柳井津金屋に店を構えていました。和洋ランプ、ガラス板、手遊び類などをいろいろ揃えて商っていました。さらには「今般写真撮影を一層勉強し、写真撮影を始めました」と宣伝し、来店して写しましょうと呼びかけています。最先端の商売です。宮島、富士山、渡月橋、大仏殿など名所の絵ハガキを載せています。当時は、地元柳井や名所の風景を絵ハガキにする人気が博し、飛ぶように売れました。

資料館便り

有料も無料も、それぞれの価値を

泉 裕子

白壁の町並みを歩くと、江戸時代の商家建築を今に伝える「むろやの園」と、明治の銀行建築を活用した「柳井市町並み資料館」があります。どちらも柳井の歴史を伝える大切な施設ですが、入館の仕組みは異なります。

むろやの園は有料、町並み資料館は無料です。料金の違いは、価値の違いではありません。

むろやの園では、江戸時代に油商として栄えた小田家の屋敷や、暮らし・商いに使われた道具などを間近に見ることができます。一方、町並み資料館では、かつての周防銀行本店の建物や、いまや名物となったお鐘金魚体験などを楽しむことができます。

実は、この二つの施設には歴史的なご縁もあります。現在の町並み資料館は、かつての周防銀行本店です。

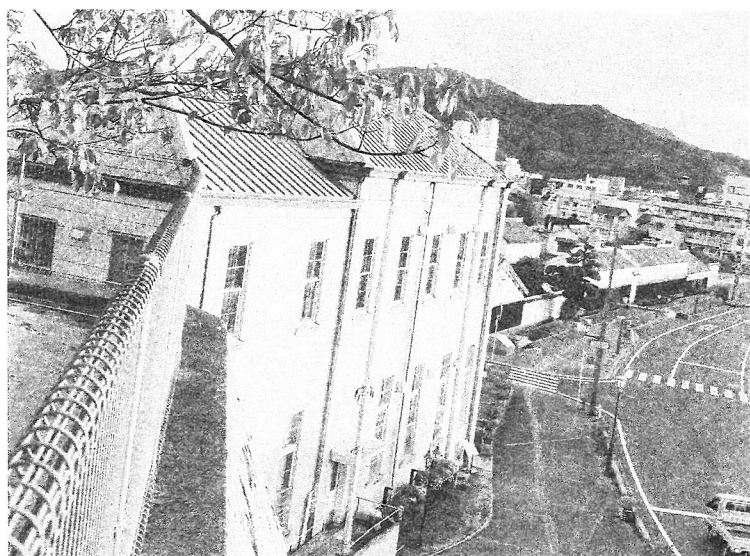
そして、むろやの園七代・小田伴輔は、周防銀行取締役でした。

二つの建物を訪ねることで、江戸から明治へと続く柳井の商業・金融の歴史にも思いを

馳せることができます。

現在、むろやの園と町並み資料館では、お互いの施設を訪ねていただけるよう、それぞれの館内で案内するなど、連携しています。

有料だからこそじっくり味わえる歴史、無料だからこそ気軽に触れられる歴史。どちらにも、それぞれの価値があります。白壁の町並みを歩く際には、ぜひ両館を訪れ、柳井の歴史を重ねて楽しんでみてください。追伸 お鐘金魚のお礼参り、去る9月20日に百五十人を超えました。



誓光寺の鐘つき堂のある広場から撮った、夕陽を浴びる町並み資料館とむろやの園

【編集後記】

★原稿に目を通しながら、コンパクトな白壁の町並みで、しかも短期間にこれほどのイベントがあるのかと驚かされました。町並みが生きている証だと感じます。

★思えばコロナ禍では行事が軒並み縮小・中止を余儀なくされました。一度止まった活動を再開できずにいる地域も多い中、こうして賑やかな報告ができるのは当たり前ではありません。皆様の愛着と熱意の賜物です。

★さて、蜘蛛の巣払いに参加した中学生たちは、始めこそ受け身でしたが、次第に暑さも忘れて夢中になり、綺麗になった白壁に満足そうな表情を浮かべていました。こうして地元への愛着は育まれるのでしょう。主体的に関わることで「自分の町」になるのだと感じます。「柳井の時代が来た！」と誇りに思う若い世代が増えることを切に祈ります。

(事務局 熊谷)

令和8年度第2四半期 柳井市町並み資料館入館者数

	令和8年7月～9月	令和8年9月現在累計
町並み資料館	5,445	360,005
	前年同期比 100.8%	
松島詩子記念館	1,249	122,895
	前年同期比 118%	